

## メンバー

大塚賢一 45才、福迫順一 37才、  
安田豊太郎 31才、岸本陽介 28才、  
田代恵子 36才、小西雅美 31才

神鍋アルペンローズスキー場が今年から閉鎖になった情報を福迫氏より入手する。

金曜日の夜、急ではあるがメンバーに「山スキーのトレーニングキャンプをする」と伝える。

このスキー場は緩斜面がなく中級者向けの斜度なので山スキー入門にはもってこいのフィールドである。ツアーブーツの足慣らし、ストックでのクライミングサポート操作、ジグザグを切った山側へのキックターンのシール登行、新雪、深雪、湿雪での滑降・・・と悪条件でのトレーニングにもってこいである。

雪はたっぷりである。当然ではあるが圧雪はされていないので壺足では膝上までスッポリと入ってしまう。しかし、170cmのスキー板にシールを貼り付けての歩行では10～20cm沈ま

# Mountaineering Ski Training camp Vol.1 2001. 2/3-4

## 天候

曇り時々晴

ない、また滑降では湿雪の重雪に板が20cmは潜ってしまうのでかなりのパワーとテクニックが要求される。一日に4本も滑ると足もピークになり程良い筋肉痛である。

夜は神鍋温泉で疲れを癒し、テント内では楽しい晩餐会である。だれもいないスキー場に我々のテントがたたずんでいる。

山スキーのようにネイチャーランドとは言えないが、我々だけがゲレンデを独占して真っ白いキャンパスに思い思いのシュープールの刻むのはなんとも気持ちがいいものである



白いキャンパスを独占



シール登行



テント内でご機嫌のバードエンジェル

## メンバー

大塚賢一 45 才、福迫順一 37 才、  
木倉 博 38 才、中垣早人 31 才、  
小西雅美 31 才、吉岡恵美 30 才

先週に引き続き再び神鍋アルペンローズスキー場にやって来た。今年度から女性メンバーが3人増えたので基礎をみっちり体に覚えさせるためにもこのゲレンデはもってこいのトレーニング場なのである。

小西、吉岡、早人は山側へのキックターンシール歩行に悪戦苦闘である。しかしこれを体得しないと氷ノ山の北壁を登れない、私も初年度は冷や汗をかきながらアイスバーンにクトーを食い込ませて登ったのを思い出す。

11日、昨日の不安定な天気はウソのようだ。朝から曇一つないピーカンの天気である。早速にテントを撤収し、急いで名色スキー場に車をデポし万場スキー場へ向かうが・・・、何とものすごい人だかりである。こんなにも大勢の人がいるのには圧倒されてしまった。片道切符のチケットを買うにも手間取り山頂リフトに着いたのは10時前であった。この時間から蘇武岳への

# Training camp

## Vol.2 2001.2/10-11

## 天候

曇り・雪・吹雪・晴れ



あらゆる天候と対峙したスキー縦走

万場スキー場～名色スキー場



雪上ラーメンタイム

アタックは無理なので名色までの縦走に切り替える。

雪はアルペンローズと同じく新雪、深雪、湿雪で3月の雪とは大違いである。

しかし、真っ青の空とまぶしい太陽に元気づけられる。奥神鍋からの合流点で先行パーティーのトレースを見つける。スキーとワカンの4人パーティーのようである。1人は林道づたいで蘇武岳へ向かっているようだ。

我々はモンスターの杉林の中へと板を運ぶ。それにしても素晴らしい景色である。

この杉林の山々の小ピークを幾つも登っては下りのシール歩行が私は大好きなのである。彼女達は一体何処に自分がいるのか検討もつかないようである、この縦走コースは何処をみても同じ様な景色に見えるのだからしかたないであろう。

名色への分岐点手前で天候が急変しアツという間に吹雪きになり横殴りの風に彼女達の顔も今までのにこやかな顔とは裏腹に青ざめて心配顔である。おまけにガスも出て視界も悪くなってきた、先行パーティーのトレースも風と雪で見る間に無くなってしまっている。また悪いことは重なるものでキクちゃんのシールが雪を噛み板に全く張り付かない状態になってしまった、彼は壺足でスキー引っ張りに切り替えるが、シール登行に比べて速度は1/3で体力も3倍使い、しだいに天候も悪化してくるので「昼の大休止はヤメて行動食で先を急ぐ！」と私が言ったものだから余計に緊張した顔になっていた。分岐地点近くで地図、高度、磁石で確認をとっていると「大塚さん、ホントに今日中に帰れるの？」と真剣顔であった。

本来なら分岐からは適度のアップダウンであるのでシールを外してスキーに切り替えるのだがこの深雪ではシールオンリーで行くことにする。名色への林道を見渡す最後のピークに着くと天候も青空が見えた



霧氷林に囲まれて雪原に行く

視界悪く吹雪きになる

木々の間を縫って滑降、激突

したので大休止のラーメンタイムと取ることにする。やっと彼女たちにも本来のにこやかな顔が戻ってきた、しかしスキー縦走初体験であらゆる天候に遭遇し冬山の怖さを見せつけられながらも良い経験になっただろう。

15時半、名色グレンデのチャンピオンコースに到着、さあシールを外してのスキー滑降であるが、これが今までシールを付けていたものだからそうはたやすく滑らせてくれない。彼女達は滑降停止訓練さながらで20mほどアツという間に滑り落ちてしまった。「ピッケルがほしい～」と叫んでいた。

短期間の間にあらゆる経験した山スキートレーニングキャンプであった。

さあ、次週からは3/4の大山XCスキーマラソンに向けてのXCスキートレーニングを氷ノ山林道で行う予定だ。

「最高の山と雪と、仲間に乾杯！！」

.....中垣早人.....



2 / 10・11日と神鍋で山スキー&雪中キャンプを楽しんできました。

メンバーは、大塚、福迫、木倉、小西、吉岡、中垣の6名。

久しぶりの参加でした。メールでのみんなからの楽しい投稿に羨ましがる日々。新しい仕事でのストレス。  
僕が冬季モードに入るのは、この連休しかありませんでした。  
大塚さんからの誘いメールには息をつく間もなく飛びつきました。  
僕からの「参加メール」大塚さんからの「了解メール」安堵のため息「ホッ.....」

当日5:30、ポプラ集合。

久しぶりにみんなの顔を見て、嬉しくなってきました。涙、ポロっ.....??車中のおしゃべりも、楽しい、たのしい.....。

突然視界が変わりました。「トンネルを越えるとそこは雪国であった・・」宮沢けんじ?、いや、川端康成?の詩を思い浮かべます。  
雪、雪、ゆき.....。辺り一面銀世界。

神鍋の一番奥に位置する、閉鎖になってるアルペンローズスキー場に到着。「ウラーーっ！！」お決まりの僕の雄叫びが辺り一面に鳴り響く。

すぐさま、山スキーのユニフォームに変身。本日は、この誰もいないアルペンローズで山スキー訓練。いきなり、急斜面をシール登行。僕とエミマルは初めてのシール。ジグを斬っての登りに悪戦苦闘。さすがに小西さんは先週の訓練でかなり身に付いている様子。しかし、シールの登坂能力にはほんとにびっくり。急な斜面をまっすぐ登っても滑らないんやから・・。先代のこのシールを考案した方に感謝。

結構バテバテモードで頂上に到着。さあ、下り、スイスイとスキーやっ！！って、そんな甘くない。豪雪で曲がろうにも曲がらない。ちょっと滑っちゃ、ドテッ、またちょっと滑っちゃ、ドテッ、こりやどう見てもスキーじゃないわ。

大塚さん曰く、「こんな豪雪の中での山スキーはわしも初めてや。」

福迫さん曰く、「これは難しいなあ。」

木倉さん曰く、「まさかこの時期に山スキーするとは思わなかった。」

小西さん曰く、「キヤーっ！！」

エミマル曰く、「.....！！」

そして僕、「ウラーーー！！」

そんなでも、めっちゃ面白い。後半の滑落訓練もいい勉強になった。

ピッケルの威力に脱帽！！パーティカル・リミットの再現？や！！

こんな感じで1日目の山スキー訓練が終了。その後は、雪中キャンプ。要領よくテントを設営し、バッチリ。さすがにアウトドア人間が揃うとスゴイ。夕食は、レストランでのフルコースディナー。とりあえず「乾杯！！」(とりあえずっていうのは、その後のテント内での豪酒が物語っている)温泉も気持ちがいい。

テント内での団らんは、申し分なく楽しかった。名前は挙げられないが、メンバーの失態もバレバレ。おもしろい。でも、みんな、酒飲み過ぎ！！次の日もあるのに、1時過ぎまで飲んじゃいけないですよ、加藤さん！！

翌日、天気は快晴！！(この時は・・・のちにあんな状態になるとは・・・)万場～名色縦走決行。(ソブにはリーダーの判断により次回に持ち越し)

でも、万場のリフトの待ち時間には、出鼻をくじかれたました。

万場リフト最終地点到着。

さあ、本格山スキーだ。僕は一年ぶり。そう、あのときは、山スキー道具持ってなくて、ワカン、スキー引っ張りで頑張ったなあ。今日の良き日を迎えられるのは、加藤さんが山スキー道具一式を譲ってくださったおかげ。本当に感謝。大切に手入れしてあげなきゃ。と、いきなりと急斜面にシールが滑って、難儀してしまった。後ろからの木倉さんのアドバイスで脱出。今回は特に要所要所で木倉さんからのアドバイスで助かりました。ありがとう！！

真っ白な世界と、ほどよい汗。山スキーヤーでしか味わえないこの感触がたまらない。「ウーーーーーっ！！」お決まりの雄叫びが山々

をコダマする。「コレやねっ！！」って実感。

万場～名色分岐地点前で天候が一転。ホワイトアウト寸前の最悪の事態に。しかし、リーダーの大塚さん、サブの福迫、木倉両氏の冷静な判断でメンバーは全く動じませんでした。ひとりを除いては……。

分岐地点後は、天候も治まり、お昼休憩。少々寒かったけど、やっぱりおいしいな、インスタントラーメン。エミマルの大ハプニング発生。笑わずなよっ！！

休憩後は、雪で埋もれた木々の中をすり抜けていく難度コース。コケて起き上がるのに、本当に苦労しました。

林道到着。「ホっ！」やっと着いたかという気持ち。林道は難なくこなし名色ゲレンデ着。また「ホっ！」。しかし、ゲレンデがこんなにも大変なことだとこの後痛感。山スキーとは全く感覚が違うので、これまたコケまくり。小西さん30m、エミマル20mのズリすべりには、腹をかかえて笑わせてもらいました。

そんなこんなで、楽しい、楽しい、2日間が終了しました。帰り、車中で、「最高の山と雪と、仲間に乾杯！！」

……これは書かなきゃアカンやろ！……

イニシャルトーク！！(イニシャルやから誰もわからんやろ?)

K.Oさん

言わずと知れた我がホワイトバードのリーダー。やっぱり、その判断力と、いざと言うときの冷静沈着な態度は勉強になります。

山スキーでの「 、そこから直滑降やー！」の口癖、なかなか難しいですよ、僕には……。それと、真夜中、みんなが寝てる時に、ひとりで大きな声で、呼びかけるのはやめてくださいね。うるさいから……。みんな寝てるフリしてましたけど……。

J . Fさん

あのスキーの技術はカッコよすぎ。あんな感じに滑れたらってずっと思っています。でも、今回、木の根っこの雪穴に頭が突き刺さったのには、今思い出しても笑ってしまいます。本人は大変だったそうですが……。あのシーンはビデオ撮りしていなかったK . Oさんを恨みます。あれは特撮ものですよ。

H . Kさん

H . Kさんの努力をこれまで以上に垣間見ることが出来ました。今回は全てにおいて尊敬の対象です。スキーの技術もさすがって感じでした。でも、あの打撲の内出血、あんなの初めて見ました。病院行ってくださいね。あれ、Hさんに見られたら、「キクちゃん、体大事にせなアカンで」って怒られますよ、絶対。で、キクちゃんて誰？

M . Kちゃん

やっぱり、その体力は凄まじいね。シールで後ろいても、着いていくのが精一杯でした。1月からずっと参加してるので、行動もすばやいし……。昼間はバッチリでした。

でも、酒飲みすぎ？でしたよ。なんやかんや言いながらずっと飲んでましたね。僕は見てました。

酔った勢いで「走ってるときって、 できるよね」とか、「寝 」したとか、という風の噂は本当ですか？真相はいかに？

E . Yちゃん

天性の明るさと、勢い、そしてタフさにはほんとに頭が下がる思いです。しかし、強気なE . Yちゃんもあのホワイトアウト寸前での天候の中での心配した顔は、その女性らしさとかわいらしさをはっきり見つけることが出来ました。でも、アレ？は恥ずかしかったね。せめて顔こっちむけときゃなきゃ。

これからもよろしく！！

